



一般社団法人 **日本教育心理学会**
The Japanese Association of Educational Psychology

2017年度 日本教育心理学会 主催 公開シンポジウム

加齢に伴い向上 維持する能力を 発掘する



日時

2017年

12/3

日 13:00~16:00
(12:30受付開始)

定員 250名 参加費 無料

どなたでも参加できます。直接会場へお越しください。

場所

**東京大学経済学研究科棟
地下1階 第1教室**

事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷5-24-6 本郷大原ビル7階
電話/03-3818-1534 FAX/03-3818-1575
E-mail/office@edupsych.jp

●司会

吉田 甫 (立命館大学)

●話題提供

超高齢者の研究から
高齢期の知的能力と環境
高山 緑 (慶應義塾大学)

訓練研究から
超記憶力の正体：人はなぜ
歳をとると覚えられるのか？
高橋雅延 (聖心女子大学)

作業記憶の改善から
ワーキングメモリ訓練の
認知神経メカニズムへの効果
竹内 光 (東北大学)

認知機能の改善から
高次精神機能の可塑性を支えるもの
土田宣明 (立命館大学)

●指定討論

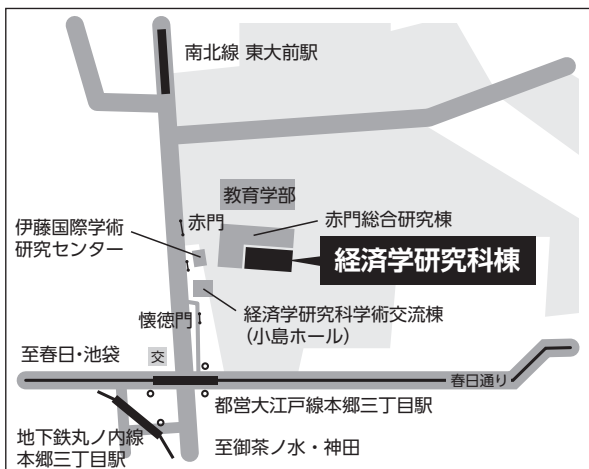
佐藤真一 (大阪大学)

加齢に伴い向上・維持する能力を発掘する

日 時／2017年12月3日(日) 13:00～16:00 (12:30受付開始)

会 場／東京大学経済学研究科棟 地下1階 第1教室

われわれは、経験やこれまでの研究から、加齢に伴ってさまざまな能力は長期にわたって低下の一途をたどると信じています。たしかに身体能力などの領域では、その常識通りです。また心理学の領域で盛んに研究されている認知能力においても、そうした結果が示され続けています。ただ、こうした研究は、加齢に伴って生じる自然な変化という枠組みを前提にしたものです。しかし、加齢に伴う認知能力などに対する介入研究などの研究からは、こうした常識が当てはまらず、能力が低下するのではなく、向上あるいは維持するといった結果が報告され始めています。そうした能力の内容が明らかになれば、これまでの常識を覆すことになり、高齢者本人にもあるいは社会全体にとっても、大きな福音となり得ます。それでは、どのような環境であれば、加齢に伴いこのような向上あるいは維持が生じるのでしょうか。脳科学を基にした介入研究、作業記憶の向上を意図した研究、あるいは百寿者に関する最近の研究などを基にして、そうした環境について考えることが、このシンポジウムの狙いです。



アクセス

■ 地下鉄

丸ノ内線本郷三丁目駅 徒歩6分
 大江戸線本郷三丁目駅 徒歩6分
 南北線東大前駅 徒歩15分

■ 会 場

〒113-0033
 東京都文京区本郷7-3-1
 東京大学経済学研究科棟

どなたでも参加いただけます。直接会場までお越しください。

